

JAM 軸受情報

Japanese Association of Metal, Machinery, and Manufacturing Workers

第21回定期総会号

JAM軸受部会 第21回定期総会

相互の連携と結束で生活の維持・向上を図る

9月2日、群馬県高崎市「高崎市労使会館」で第21回定期総会が開催され、軸受産業に働く仲間の地位向上と生活安定に向けた「2020年度活動方針」が確認されました。あわせて、任期満了に伴う改選で桑山部会長（不二越）から谷口部会長（NTN）へバトンタッチされ、総会で決定した方針は新体制へ引き継がれました。



軸受共闘で 難局を乗り切る

JAM軸受部会 部会長
桑山 比呂志

[第25回参議院選挙について]

軸受部会に集う各単組には、各地方JAMでリーダー的な役割を果たしていただくよう、様々な機会をお願いをしてきました。これまでの精力的な取り組みに厚く感謝を申し上げます。

選挙の結果については、非常に残念なものになりました。組織を信じ、立候補して闘ってくれた田中ひさや前JAM副会長には、軸受部会としてお詫びを申し上げたいと思いますし、今後の政策実現活動に向けて、各単組、地方JAM、JAM本部のなかでしっかりと総括をしなければならないと考えています。

[春闘の取り組みについて]

2019年春闘の結果については、代表者会議などで報告されている通りですが、軸受部会においては6年連続でベアの獲得ができ、また一時金についても一定の成果を得ることができたと思っています。

軸受産業を取り巻く情勢については、米中の貿易戦争などの影響を受け、前期の第3四半期から業績に陰りが見えはじめていましたし、今期については業績の下方修正が相次いでいます。また、10月から消費増税が実施されることになっており、確実に物価が上昇するなかで、これから取り組む2020年春闘については、大変難しい春闘

になるのではと思っています。

環境が厳しい時こそ団結し、鉄の結束である軸受共闘の力で乗り切っていきたいと思っています。

[軸受部会結成20周年について]

8月3日に名古屋の地で20周年記念式典を開催させていただきました。来賓として、JAMの安河内会長をはじめ、軸受各企業の代表者や軸受部会17単組の三役の皆さん、役員OBの皆さんに参加をいただき、無事に式典を終えることができました。あらためて皆さんに感謝を申し上げます。また、結成20周年を記念して、軸受部会の新たな旗とロゴマークを作りました。記念式典のレセプションでも披露させていただきましたが、次世代へ大切に引きついでいただきたいと思います。

定期改選を迎える本総会において、退任される役員が8名いらっしゃいます。この間のご協力に感謝を申し上げるとともに、今後のご活躍をご祈念申し上げます。

終りになりますが、軸受産業を取り巻く環境は、米中貿易摩擦の影響など、楽観視できません。軸受部会として、本総会で確認していただく新たな体制と方針のもと、いかなる状況であっても、更なる共闘強化で、労働条件向上の手綱を緩めることなく、またJAMの牽引役として、活動を展開していくことを申し上げ、軸受部会を代表しての挨拶とします。

2020年度活動方針(抜粋)

1. 労働協約改善闘争と経済闘争

(1) 2019年労働協約改善闘争

経済や社会の変化を背景に、労働諸条件の分野は広く、新たな課題も含め改善項目は多岐にわたってきており、軸受部会として、労働諸条件向上の取り組みについては、JAM方針を基本とし、加えて、これまでの各種取り組み(水準向上、制度改善)の底上げを統一的に取り組みます。

年末一時金闘争もJAM方針を基本に、昨年の年末一時金以降の間情勢、2019年春闘および夏季一時金の水準などを参考に、労働者の所得向上に向け、取り組んでいきます。

1) 2019年労働協約改善闘争の要求項目

① JAM方針(要約)

(1) 最重要課題

イ. JAM労働時間指針に沿った労働時間に関する取り組み

(2) 重点課題

イ. 高齢者雇用の取り組み
「高齢者雇用に関する指針」に沿った取り組みを図る

ロ. 多様な人材へ対応する取り組み
・非正規労働者に対する取り組み
・改正育児・介護休業法への取り組み
・ダイバーシティに対応した包摂的な就業環境の整備

ハ. 改正労働安全衛生法に対する対応と企業内労災補償協定の取り組み

② 軸受部会方針

(1) 総労働時間の短縮に向けた取り組み

- ・月45時間を越える所定外労働時間に対する通常残業割増率を50%に引き上げる。また、全ての休日割増率を50%以上に引き上げる。
- ・労働時間管理体制の強化
- ・年休促進運動への取り組み(月1日以上の取得)(※政府2020年目標、年次有給休暇取得率70%への取り組み)

(2) これまでの取り組み項目

- イ. 安全衛生活動の強化(メンタルヘルス対策)
- ロ. 高齢者雇用の取り組み
- ハ. 退職金に関する取り組み
- ニ. 各種手当の改善
- ホ. 海外勤務者の労働条件の改善
- ヘ. 福利厚生の実質(職場環境および各種制度の改善)
- ト. 次世代育成支援対策
- チ. 派遣・請負労働者に関する取り組み
- リ. 賃金制度の確立・整備に関する取り組み

2) 闘い方・日程

JAM方針を基本に軸受部会としても、日程設定を行なっていきます。また、年間二大闘争の一つとして情報交換を密にし、全体の底上げにつながるよう取り組みを行なっていきます。

要求提出日：10月3日(木)までに

解決目標日：11月7日(木)までに

(JAM統一回答指定日)

(2) 2019年年末一時金闘争

2019年春闘方針に則るとともに、労働者の所得水準回復を通じ内需の拡大を図り、日本経済の改善を確かなものにしていく観点から取り組みます。また、企業の動向や企業への各種協力体制への成果なども加味し、年末一時金闘争に取り組みます。

1) 要求内容：年間5カ月基準または半期2.5カ月基準の要求とする。最低到達基準として、年間4カ月または半期2カ月とする。

2) 日 程：要求提出：10月17日(木)まで
統一回答指定日：11月7日(木)

(3) 2020年春季生活闘争

JAM方針を基本に軸受部会としての方針を付加して、春闘方針の確立を図っていきます。また、大手労組会議や中小労組会議において、経済情勢や軸受産業を取り巻く環境および、労働者の生活実態などを分析し、具体的要求(案)を構築していきます。

1) 基本的な考え方

- ① ゆとり・豊かさの実現に向け、賃金水準の維持・向上の取り組み
- ② JAM方針の下、軸受産業に働く者の雇用と生活を守り生活の安定を目指す
- ③ JAM軸受部会の目標賃金への到達を目指す
- ④ 賃金・一時金の同時決着により、生活の安定を図る
- ⑤ ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた取り組み
- ⑥ 非正規労働者の労働条件改善への取り組み

2) 闘い方

① 要求提出日・回答指定日はJAMの方針に沿って、検討し確立していきます。

② 解決日の設定については、JAMの方針を加味するとともにJAMの中で先導的な役割を果たせるよう、検討していきます。

- ③各単組間および事務局との連絡・連携を密にし、一層の共闘体制の強化を図ります。
- ④幹事会・代表者会議を開催し情報交換を行ない、交渉における相乗効果に努めます。

3) 部会中期目標「労働時間の短縮」への取り組み

①労働時間の短縮と休日増

所定内労働時間	所定外労働時間	年間休日	労働日数
1,840 時間	180 時間	125 日	240 日
有給休暇分	特別休暇分	総実労働時間	
153 時間	8 時間	1,859 時間	

- ・所定労働時間が1,950H越えの単組は、1,950Hを切る。
- ・所定労働時間が1,930H越えの単組は、1,930Hを切る。
- ・所定労働時間が1,900H越えの単組は、1,900Hを切る。
- ・休暇の最低発生付与日数を20日とし、最高付与日数を25日とする。

②割増率の改定

- ・時間外割増率
当面の目標を40%として、50%を目指す。
- ・休日出勤割増率
当面の目標を50%として100%を目指す。
- ・月45時間、月60時間超割増率
50%を目指す。(2023年4月1日施行前に改定を目指す)
- ・深夜割増率
50%を目指す。

2. 組織・共闘体制の強化

(1) 専門員会

6 専門委員会で構成をし、専門部ごとの役割を果たすとともに、専門的な研鑽に努めていきます。また、必要に応じ幹事会や各単組へ資料の提供を行なっていきます。

1) 産業政策委員会

- ①軸受産業のユーザー（自動車・電機・建設機械・工作機械など）の動向調査や、JAM政策委員会を中心とした会議に参加し、部会としての意見を述べていきます。
- ②一般社団法人日本ベアリング工業会との懇談会は、今後検討していきます。また、公正な取引環境の改善に向け、JAM本部と連携した取り組みを行なっていきます。

2) 組織委員会

JAM方針に基づいた組織強化・拡大を行なっていきます。

3) 青年女性対策委員会

役員の育成と単組間の若い人の交流の観点で、活

動を進めます。具体的には全単組交流会を開催し、幹事の皆さんには世話役活動やリーダーシップを体験するとともに、参加者の皆さんには他単組の活動状況や企業文化の違いなどについて実感をしていただき、今後の活動に活かしていただけるような活動を進めます。

4) 福祉・安全・調査委員会

恒例である、労働災害調査・労働時間実態調査内容を充実させて、実施していきます。また、必要に応じ各単組からの調査要請などにも、対応できる体制作りを継続して行なっていきます。

5) 広報委員会

定期大会（9月）と第1回代表者会議（1月）後には、「JAM軸受情報」を年2回発行して年間活動および春闘方針の徹底を図ると共に、連帯の強化に努めていきます。また、春闘時には「軸受・2020年春闘情報」の発行を行ない、各単組の春闘進展状況などの確認および情報交換の一役を担っていくと共に、春闘前段においては「組合員生活意識実態調査」を行ない、組合員の生活実態や春闘要求水準、さらには政策制度への要望などについての意向をまとめて活動に活かしていきます。あわせて、「標語・カット」の募集をし、入賞作品の表彰も行なっていきます。安全週間においては「安全ポスター」の応募・表彰を行なうと共に、一般社団法人日本ベアリング工業会との連名において印刷し、職場に掲示をいただき安全意識の向上に努めていきます。

6) 賃金対策委員会

軸受部会各単組の賃金実態調査を行ない、集約データを基にJAM実態賃金と軸受部会が目指す目標賃金との実態について確認を行なうとともに、春闘要求（案）作成時には、内容を反映していきます。また、昨年から実施している初任給の調査を行ない、結果をとりまとめ、各単組の要求資料として提示していきます。

(2) 労使関係の充実

前期も開催した労使研修会（講演・工場見学）の内容を充実させ、各企業・組合の円滑な労使関係における情報交換は重要と位置づけ、取り組んでいきます。

3. 政策制度への取り組み

より豊かな生活を目指す観点で、企業内では取り組めない税制や社会保障問題などへの取り組みとして、政策制度の取り組みが重要となってきました。

軸受産業に関わる困りごとなどを政策に結びつけるなど、今まで以上に政策制度に関して関心を持ち、行動する必要があります。合わせて、これまでも取り組んできている、価値を認め合う社会を目指した公正取引の問題についても、引き続きJAM方針に基づき、軸受部会として具体的な取り組みを行なっていきます。

また、第25回参議院選挙「田中ひさや」の取り組み結果（惨敗）のJAM本部総括を踏まえ、軸受部会としても幹事会などを通じ徹底を図って行きます。

総 会 宣 言

本日、軸受部会第21回総会を開催し、昨年の活動の振り返りと向こう1年間の活動方針を確認した。春闘や秋闘をはじめとする組合員の労働条件改善や情報共有化による軸受部会の共闘で組織強化に取り組んでいく。

経済環境は、これまで堅調に推移してきた世界経済であったが、米国の保護主義施策により先行きについては不透明感が増し、世界経済に影響が出始めている。

政治情勢は、7月の参議院選挙において政権与党が過半数を超える議席を確保し、私たち労働者が求める政策制度の取り組みはもとより、社会保障改悪や日本の平和憲法の改悪の動きなど、今後の政権の国会運営を注視していかなければならない。

また、今回の選挙はJAM・労働組合の組織力を推し量る重要な取り組みでもあったが、今回の厳しい結果を真摯に受け止め、労働組合という組織の足腰となる組織力の強化を地道に図っていく必要がある。

我々軸受部会は「公正で安心して暮らせる社会の構築」と「安心・安全・充実感を持って働ける環境づくり」に向け、一人ひとりの力を結集し団結力を高めていくことが大切である。

本日、軸受部会第21回総会に集う仲間は、JAM方針に基づき年間二大闘争を中心とした労働条件の向上と、政策制度の実現を目指した取り組みを展開し、全力で活動を行なうことの意味確認を行なった。軸受部会に集う仲間の団結をこれまで以上に高め、活動に邁進していくことをここに宣言する。



2019年9月2日
JAM軸受部会
第21回定期総会

● 新任9名 新体制スタート! ●

2020～21 年度役員体制

部会長	谷口 和雄	(新、NTN)
副部会長	土屋 茂	(新、日本精工)
副部会長	土居 正美	(新、不二越)
副部会長	北野 善彦	(再、ダイベア)
事務局長	堀田 悟司	(新、NTN)
副事務局長	工藤 朋也	(新、日本トムソン)
幹事	高田 稔	(新、NTN三重)
幹事	宮戸 信一	(再、天辻鋼球)
幹事	内海 良樹	(再、オイレス)
幹事	本多 祥央	(再、東振)
幹事	吉澤 淳雄	(再、宇都宮機器)
幹事	廣澤 員久	(再、旭精工)
幹事	小林 登	(再、井上軸受)
幹事	柳川 浩一	(新、NSKマイクロレジジョン)
幹事	河上 幸介	(新、東野産業)
幹事	安食 隆志	(新、NTN casting)
幹事	竹内 一浩	(再、光精軌)
幹事	増田 貴臣	(再、日本ニードルローラー)
会計監査	岡崎 康孝	(再、東振)
会計監査	君島 康隆	(再、宇都宮機器)

以上、20名

● 退任された方々 (敬称略) ●

前部会長	桑山比呂志	(不二越)
前副部会長	鈴木 克志	(日本精工)
前事務局長	宮崎 敏裕	(不二越)
前副事務局長	井上 健	(日本トムソン)
前幹事	大西 亘	(NTN三重)
前幹事	岡部 真司	(NSKマイクロレジジョン)
前幹事	佐久間章寛	(東野産業)
前幹事	釜屋 忍	(NTN casting)



これまでのご尽力に感謝申し上げます。
ありがとうございました。